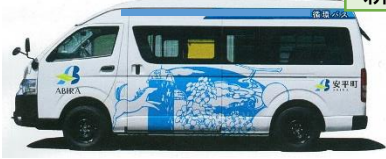


安平町地域公共交通網形成計画(平成29年5月策定)

- ◇ 町民の足を守るため鉄道を維持・確保し、これを補完する地域内循環系統、デマンドバス等の公共交通の位置づけを最適化する
- ◇ 交通拠点の創出による地域公共交通網の利便性向上と町内の回遊・交流空間を促進する交通体系の構築を目指す
- (1) 地域内循環系統の効率化(鉄道との接続向上、バス交通の統合再編など) (2) デマンド交通の効果的運行(鉄道との接続配慮、待合環境の整備など)
- (3) 利用促進策の検討(総合時刻表や路線図等の作成、共通回数乗車券の発行など) (4) 町民協働による意識醸成(ノーマイカー運動、免許返納の推進など)

類似していた公営・民営のバス路線の統合による新しい「循環バス」の運行



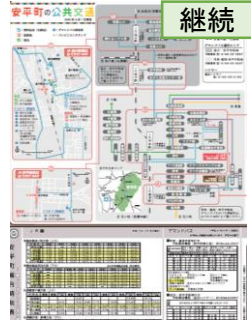
新規

- [主な成果]
- ①公共交通モード間の機能分担強化
⇒鉄道(主に都市間)、バス(地区間)、デマンドバス(小地域内)、ハイヤー(観光・多目的・適時性)
 - ②便数増・日数増による利便性向上
⇒誰でも乗車可の便数が4便→10便に

- [背景]
- ・民間バスの乗車実績の落ち込み(1便あたり1.5人)
 - ・公営プールバスは利用者限定ながら民間バスと類似した経路を運行しており非効率。また町単費で運行。
 - ・鉄道やハイヤーの経営悪化、全国的な高齢者事故増⇒移動ニーズとの乖離解消と運行財源の確保が課題

- [主な改善内容等]
- ・重複2路線を廃止し、従来機能も踏まえた新規路線に
 - ・週4日→平日週5日運行に。1日4便→10便に。
 - ・他交通モードとのサービス・運賃バランス(定額200円)
 - ・ただ1時間毎に走らせるのではなく、どんな人がどんな目的のために乗るかを具体的に想定した時刻・経路
 - ・右記ソフト事業と連携した総合力・相乗効果を期待

公共交通全体の利用促進策の展開(総合時刻表の配布、共通回数乗車券の発行等)



継続 [時刻表・路線図・利用ガイド]

- ・賢く上手な交通の組合せを啓発(組合せのモデルケースも掲載)
- ・町内公共交通を全て網羅
- ・公共施設や食・宿・生鮮店舗のマップも掲載
- ・各交通モードの車両や乗り方・運賃等を写真や図を用いて案内
- ・乗り継ぎメモとして使える「私の時刻表(名刺サイズ)」も掲載

時刻表掲載ページ→



[共通回数乗車券の発行] 新規

- ・10枚価格で11枚購入でき、町内の公共交通で使用が可能(鉄道のみ未連携)
- 50円券は、子ども運賃の支払いに便利!
- 200円券は、循環バスの運賃の支払いに便利!
- 300円券は、デマンドバスの運賃の支払いに便利!
- 3種類の券を1枚ずつ使用すれば、ハイヤー初乗り運賃550円になるので便利!

⇒人口減少にありながらも、単一交通モード利用者を他モードにも利用流動化させ、奪い合いではない全体の活性化に期待

⇒ICカード導入等とは違い安価に導入可能。高齢者にもわかりやすく受け入れられやすい。



ノーマイカー運動

(町全体の取組み・町役場での取組み)

①JR室蘭線で行こう! うまかまつり 拡充

- ・安平町内最大の祭り「うまかまつり」に、鉄道に乗って参加する方に対してまつり出店商品券を配布⇒鉄道の利用促進(循環バスは休日運休)、町内外からのまつり増客に期待

②免許返納者に対する公共交通の利用支援 新規 (運転免許自主返納者支援事業)

- ・75歳～80歳を推進年齢とし、年間33,000円の共通回数乗車券を3年間交付(4年目以降16,500円)(80歳以上の自主返納者は、33,000円を1年間)⇒「免許返納×公共交通利用促進」の取組み H28実績4人→H31.4導入から3か月で11人

③ノーマイカーデーの実施(町役場での取組み) 継続

- ・月1回以上、通勤に公共交通を利用する運動⇒町職員が率先して鉄道を利用し、町民等にも利用を促す呼び水になることを期待

④出張時の公共交通利用(町役場での取組み) 継続

- ・札幌や苫小牧、岩見沢への公務出張時は、積極的に鉄道を利用

その他、町民団体による駅美化や花植活動などの協働事業、あびらチャンネルでの利用啓発CM、室蘭線活性化協によるSNS発信、JRヘルシーウォーキング等イベント連携など、幅広く多様な主体との連携により利用促進策を展開中。 拡充